NIEしもつけ ワークシート

⑰

小学校高学年向け

年　組

「とくじろう」から「とくじら」に

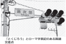
宇都宮市徳次郎町

市、住居表示審議会を設置

【宇都宮】「とくじら」か「とくじろう」か―。市は徳次郎町の読み方を「とくじら」とする地元の要望を受け、市住居表示審議会を設置、読み方の変更を話し合う。市議会の議決などが必要だが、本年度中には変更が認められる見込み。地元富屋地区連合自治会の猪野栄利会長（67）は「地元の住民は『とくじろう』とは言わない。正式に『とくじら』になればとてもうれしい」と話している。（亀井暁）

市によると、同町の読み方は1954年、市と旧富屋村の合併の際、「とくじろう」と定められた。当時の経緯は分からないが、地元では古くから「とくじら」と呼び、この読み方に強い愛着を持っている。「徳次郎城跡」や「徳次郎保育園」などは昔ながらの読み方をしている。

昨年秋「とみやふるさとまつり」の際に自治会の役員らが集合し、読み方変更で意見が一致。市に要望することになった。今年4月21日、地元全7自治会と同連合自治会がそれぞれの署名で市に要望書を提出した。



「とくじろう」とローマ字表記のある国道交差点

地元要望受け 読み方変更へ

市は要望に応え、変更に関する必要な調査や審議を行うために、第40次同審議会を設置。専門委員のほかに一般市民も2人公募する。7月から2回程度会議を開き、結果を市長に答申する。市は答申を受け、12月の市議会に議案を提出、議決されれば、来年3月ごろに告示され新名称となる見込み。

同町に住む宇都宮伝統文化連絡協議会顧問の池田貞夫さん（72）は「『とくじら』は江戸時代から全国に知られていた歴史的に意味のある読み方。（変更を審議する）市の英断に感謝します」と喜んでいる。

（2020年５月23日付・下野新聞21面）

【言葉の意味】
地元＝そのことに直接関係のある土地。
要望＝物事の実現を強く求めること。
経緯＝縦と横。物事の筋道。いきさつ。てんまつ。
英断＝きっぱりと事を決めること。また、すぐれた決断。

設　問

【１】「徳次郎町」は現在、なんと読んだらいいでしょう。

【２】「徳次郎城跡」「徳次郎保育園」はなんと読んだらいいでしょう。

【３】地元の人はなぜ「徳次郎」を「とくじら」と読むのでしょう。

【４】あなたは「とくじろう」と「とくじら」のどちらの読み方がいいと思いますか。それはなぜですか。

【５】次の地名はなんと読んだらいいでしょう。
（１）刑沢
（２）祖母井
（３）刑部

出題・監修は県小学校教育研究会国語部会・大島康正宇都宮市五代小副校長